

石壺のある平原

耳はかけ、目はしぼみ
とうとう黙りこむ

カオ シイブ
カウ シイブ ……

幼い声
背丈をこえる石壺へ
とつとつと影

無遠慮に訪れた、祈りも忘れた手のひらだけど
石の肌を、タタイテ、タタイテ
空洞こそ
はきはきと巨きなひびき

「言葉をもらったから、黙っていてもにぎやかにぎやかに死ぬでしょう」

紀元前から坐りこみ
文字ももたず、身重のまま
花粉にこすれてほのかに赤らむ
ほころびのあるふるい衣裳
どなたふたりの婚礼ですか

わたしたちです
はるばるようこそ

やわらかな風、不自由な呼吸をたてて
たたく

手をとめる

シエンクワン

草なびき はきはきとやむ

反響

579 = 2016.3

880 = 2016